



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033 ③3034 番
編集兼人 山下 開
発行人 山下 開
半年間1,200円 送料共

危機突破に団結を

大牟田地区統一メーデー

第四十九回大牟田地区統一メーデーに大牟田市の竹林公園で開催された。好天気に恵まれ、例年通りであった。

深刻な経済危機、賃金抑制、人への合理化と失業増大という情勢を、働く者の団結の力で突破してゆく決意を固め、全参加者は祭典終了後大牟田市内をデモ行進。メーデーの意義を市民に訴えたいが、詳細は次号に。

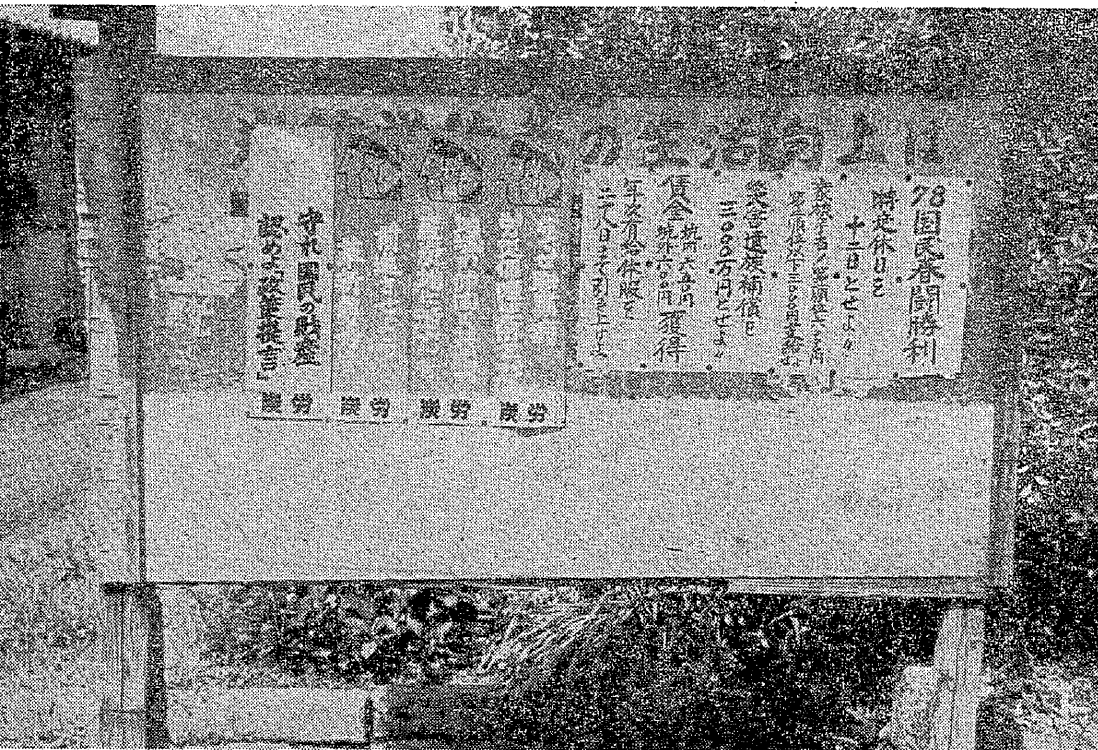
春闘

炭労、いよいよ実力闘争で回答せまる

バカにした会社回答

賃上げ115円でガマンできるか

百十五円という会社の賃上げ回答は、職場、家庭から抗議の声が集中している。それでも三池新労幹部をたのんでか、耳をかきともしない会社。三池労組は炭労の指導にもとどき、あくまで要求をつらぬくために実力で闘ってゆく。



これは荒尾市万田社宅、西町地域分会の掲示板。春闘アピールが、静かに社宅に住む労働者と家族に呼びかけていた。

職場新聞が抗議

とかく低回答が続く春闘でも、石炭資本—三井石炭の賃上げ回答ほどバカにしたものはない。一方当たり坑内六百五十円、坑外六百円という炭労の賃上げ要求に対して百十五円。月にすればわずか二千八百円だ。

各職場新聞がいっせいにあげた抗議の声。
X
主婦はあちこち安物ばかりあさりまわり、アルバイトめざし、千円低く、物価上昇の六・八%よりもはるかに低い。坑外労働者は展開修正されると、賃上げゼロになる。汗水をたらして働いた代償が百十

相次いで死亡災害発生

暴走炭車、人車に激突

死者1人、重軽傷104人

四山鉞

重大災害相次ぐ三井三池炭業所(織田三郎所長)で、また一人死亡、百四人が重軽傷を負う大災害が起きた。三十日早朝四山鉞(木村治鉞長)で突如無人炭車が暴走、堅真下の人車ホームで発車を待っていた坑底人車に激突したもので、保安管理の重大さを改めて焼きつけた。三池労組はただちにストライキをうち、いまだに保安監視を求め会社に抗議。

災害が起きたのは、四月三十日、二十両編成の列車は、その日各ももったく変りなく発車を待った。午前七時二十分ごろ。職場に向かう百二十四人の労働者が、乗車した。炭車だ、おろろ」という声がかき起して、前の方から



ある人たといふことを郵便局で証明し、訂正したときは、訂正印を押す。もし一枚で書ききれないときは、縦じまに割印をします。

内容証明郵便を出すときは、三通通った手紙のうち一通は相手に送られ、一通は郵便局で保管され、一通は郵便局の証明印が押されて差出人にもとされます。この分と、郵便局からの受取証は大事に保存してください。内容証明を出すための用紙は、文房具屋で二十六行二十字詰めにつくったものを売っています。自分で適当な用紙に書いてもいいです。

内容証明郵便について

契約の解除通知を地主が借主にする、内容証明郵便という制度を利用します。

これは差し出した郵便物について、郵便局で「たしかに、この内容の郵便物を受けつけました」という証明してくれるのです。内容証明郵便は書留扱いになります。そのほかに、その郵便物がたしかに配達された証明をするのか。ひとつは、炭労と全炭鉱の要求額の違いがあり、ふたつは全炭鉱といつても三池新労と松島炭組)の中で、新労組がストをせざるがままです。

賃上げが景気回復

人がたべられてこそ

国内石炭の三分の一を掘り出す三池炭産で、労働者が必死に奮闘に立ち上がっているとき、新炭産に立ち上がっているとき、さらに職場新聞、なかま(三川八分全)は、春闘の背景とそれを

世の中は、政治・経済の土台に横たわる需要と供給、生産と消費によってバランスが保たれています。あんたつくる人(生産)。ほかたべる人(消費)。

三川鉞では落盤死

朝倉叶さんの命を奪った四山鉞の災害に先だつ四月二十五日、三川鉞(平賀哲陽鉞長)はこれまた労働者の命をもぎとる大災害を引き起こしている。その午後七時十五分ごろ、同

多くの人が買ったりたたりすることができれば、それに見合っているものを大量につくることが必要になります。つくるためには、賃上げこそ労働者の消費力を拡大し、生産を刺激し、雇用を拡大し、景気を回復し、明るい希望がもてるようになります。